

# 事業のタネシート

活動地域・団体名：久留米市田主丸町 田主丸・未来創造会議

## 事業名称 1：伐採したカラタチの再利用

あらすじ

伐採カラタチを再利用した商品開発を実現することで、今まで焼却処分していた伐採カラタチから付加価値を生み出し、CO2削減につなげる。また、焼却処分の作業負担軽減と再利用に伴う収益改善で、労働力や後継者の確保を容易化し、安定した苗木生産業を実現する。

ストーリー

みかんなど柑橘系苗木は田主丸が全国生産の8割を占め、春時期には毎年360万本の伐採カラタチが発生する。現状はカラタチ伐採後すぐに接ぎ木する必要があり、鋭い棘でかさばり運搬に不向きで、焼却処分せざるを得ない。しかし、これほどの伐採カラタチを供給できるのは全国でも唯一ここ田主丸だけ。伐採カラタチの再利用化が実現できれば、他地域では追従できないブランドを確立することが可能。地元の人にも、地元の愛着と誇りを持てる機会ともなる。苗木生産の収益改善は労働力雇用の意欲を高め、人口の地域外流出を防ぐことにも繋がる。苗木生産の維持は、田主丸の自然豊かな景観を維持することにも繋がる。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	全国のみかん業を下支える田主丸のみかん苗木生産業が、今後も安心して農作業に専念できる環境。	・カラタチの機能性成分や抽出方法が知られていない。 ・伐採カラタチの再利用する前提となる材料化(チップ化)が、既存粉砕機では対応できない。
②課題	みかん苗木を接ぎ木するためカラタチ苗木を育て、台木として下部6cmを使うが上部は伐採。この伐採部分を引き取って活用してもらえる方法はないか？	
③なぜこの事業をやるのか(Why)	現状の焼却処分は、CO2環境や周囲住民に悪影響。他の処分法が見つからぬと苗木生産は縮小、田主丸の独自性は無くなり、全国みかん業にも大打撃。	
④地域資源	みかん苗木など柑橘系苗木は全国生産の8割を占める田主丸の特産物。苗木畑が植木畑や耳納連山と相まって生まれる田主丸ならではの美しい景観。	
⑤商品・サービスの具体的な内容(What)	伐採カラタチの成分を利用したアロマオイル、堆肥、着火剤、化粧品の開発。伐採カラタチの棘を利用した商品開発(未定)。カラタチ苗木を育てるための収穫するカラタチの実の成分を利用したアロマオイル、化粧品の開発。	
⑥担い手(Who)	アロマオイルメーカー(八女飛形蒸留所、緑の機能性研究所など)、化粧品メーカー、肥料メーカー、燃料メーカー、福岡県苗木農業組合、福岡苗木研究会	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	苗木生産者の負担減→地域外からの資金流入→苗木生産者の収益改善→後継者・労働力の確保→苗木畑面積の維持・拡大→CO2増の抑制・CO2削減→自然景観の維持→関係人口の増→移住定住者の増	・研究機関 ・商品化/事業化に協力してもらえる企業やコンサル関連団体 ・農機製造メーカー
⑧事業で生じる成果	日本のみかん農業の安定、地元農業人口および地元での就職口の確保、田主丸の独自性の確保	

事業名称2：J-クレジット普及など耳納連山の森林の価値向上	
あらすじ	
全国でも早期に開始した「かつばの森J-クレジット」の販売向上施策を軸にしながら、故郷の象徴である耳納連山を、この地域のローカルSDGsの象徴に仕立て上げ、地元のSDGsの関心と参加意欲を高める。その盛り上がりを全国PRし、関係人口の増加につなげる。	
ストーリー	
木は切ったら次の木が成長するまで50年を要する。十数年前に、久留米市田主丸財産区は、資源を消費せず経済的価値を生み出す方法を思案していた中でカーボン・オフセットに注目、全国でも早い時点でJクレジットを導入。未だ地元にも広く知られていないが、SDGsの高まりの中、Jクレジットの存在を改めて周知することで、地元企業や個人の間にも耳納連山のために貢献したいという人は数多く現れるはず。また、財産区の間伐作業など実際の森林管理を見学体験するSDGsツアーを整備し、関係人口を呼び込み「SDGsの耳納連山」というイメージを全国展開できる。さらに、グランピングや散策道を整備することで、滞留時間を増やし地元経済も活性化できる。	
現時点で想定される 課題・ボトルネック	
①ありたい未来	田主丸町に住む人が常に目にする耳納連山。山の緑がいつまでも美しく維持され、「わが故郷SDGsのシンボル」として地元の誇りとなり、全国から注目される。
②課題	Jクレジットを先進的に導入した田主丸財産区の活動が、広く一般に知られていない。日々眺めても訪れる機会少なく、活動の場として山が活用されず。
③なぜこの事業をやるのか (Why)	田主丸町の象徴・耳納連山で展開するSDGs活動を地元にも認知してもらうことが、SDGsに対する地元の関心と参加意欲を高めるためには不可欠。
④地域資源	耳納連山の内、久留米市田主丸財産区が管理する約800ha。田主丸財産区が販売する「かつばの森J-クレジット」。屏風山とも言われる耳納連山の景観。
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	「かつばの森J-クレジット」の久留米市ふるさと納税の返礼品登録。同クレジット付の農産物販売。グランピング、散策道などの整備。間伐作業見学や植林体験含む耳納連山SDGsツアーの開発。地元向け学習会研修会の整備。
⑥担い手 (Who)	田主丸財産区、浮羽森林組合、久留米市、道の駅くるめ、JAにじ、エコツーリズム企業、グランピングなど森林レクリエーション関連企業
⑦事業で生じる循環	森林管理の資金増→地元/全国に対する耳納連山の認知度向上→森林レクリエーションおよびSDGsツアーの整備拡充→耳納連山への関係人口の増加→地元での雇用状況改善→地域外の人口流出減少・地元社会の活性化
⑧事業で生じる成果	森林管理能力の向上によるCO2削減、地元のSDGs意識/参加意欲の向上、地元への愛着の強まり
課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国、J-クレジット専門コンサルタント。</li> <li>・水/空気/気候/歴史文化/精神面といった多角的な視点で耳納連山の存在を分析する専門家。</li> </ul>	

**事業名称 3 : 神事・伝統行事の保存活用**

あらすじ

田主丸の神事伝統行事の体験プログラムを通じて、地元のみならず全国の若者世代に、SDGsの大切さ、日本の歴史文化を実感してもらう。地元の人に積極的にプログラム関与してもらうことで地域社会参加の機会を増やす。関係人口の増加に伴う資金の域内流入を実現する。

ストーリー

神事・伝統行事は、自然・農業・社会のどの要素が一つ欠けても消え去ってしまう微妙な存在、いわばローカルSDGsのパロメーター。全国に神事伝統行事はあっても、土地毎の特徴と物語は一つとして同じものはない。田主丸では7km四方の狭い範囲に、70を超える神社・祠のどこかで毎月何らかの神事が行われる。しかし、高齢化・少子化や農業縮小で、10年もすれば田主丸でも廃れてしまうだろう。そんな風前の灯火状態の今だからこそ、地元や全国の若者世代に見てもらう必要がある。神事伝統行事の一つ一つが、昔の人の心を感じるタイムカプセル。何気ないいちんまりとした神事伝統行事こそ、既に多くの地域で絶えて今では貴重な財産なので、全国の関心を引き付ける重要な地域資源。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	地元の歴史遺産として神事伝統行事を慈しみ残そうとする思いを全世代で持つ。全国でも貴重な歴史遺産として認識し、保存と公開の調和を熟慮する。	・神事伝統行事を見学させることに対して否定的な感情を持つ一部地元住民への対応 ・日本人よりも日本歴史文化に関心が高い富裕層外国人に対する訴求、および、その受入れ体制
②課題	神事伝統行事に深く関わる前に若者世代が地域外に流出するため、お世話する手順やしめ縄づくりなど必要な技、維持する意思が断絶してしまっている。	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	今やらねば確実に10~20年後には現在の田主丸の神事伝統行事は消え去ってしまう。地元と全国の認識を高め、可能な限り出来るだけ残すことが必要。	
④地域資源	今でも農業が盛んなこともあり、神事伝統行事が多数残り毎月どこかで行われる。しかも、狭い範囲に集中しており、同じ行事でも地区毎の差異が確認可能。	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	小中高生や若者世代を意識した地元向け神事伝統行事見学/学習プログラム。地元小中高生による神社や祠の物語り発見学習。小中高生のガイド体験養成講座。一般向け神事伝統行事見学プログラム。神事+農業体験の農泊。	
⑥担い手 (Who)	地元自治会、市(市民文化部文化財保護課)、地元小中高校、久留米市内大学、農泊団体(久留米耳納グリーンツーリズム協議会)、県観光推進団体	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	注目されることによる地元の再認識→地元の活性化→体験プログラムの充実→地域外からの関心の高まり→地元内の神事伝統行事への愛着誇りの醸成→さらなる関係人口の増→他地域資源との連携密接化→地域経済の活性化	・田主丸町内の自治会、氏子世話役、市文化財保護課 ・県、国の富裕層外国人層向けツーリズム企画部門
⑧事業で生じる成果	地域歴史文化への愛着・誇り、神事伝統行事から地域自然・産業・社会へと広がるSDGs的視点、関係人口増に伴う地域経済の活性化	